

[マニュアル](#)に戻る。

Arduinoと通信しよう

Arduinoというデバイスを使ってLEDやセンサなど外部デバイスとの入出力をしてみよう。Arduinoを使用するためには、ローカル版のドリトルが必要である。

Arduinoの入手

Arduinoは、イタリアで開発された汎用入出力ボードである。設計がオープンソースとして公開されており、さまざまな製品が存在する。¹⁾今回は、Arduino UNOという最新のボードで動作を確認した。このボードにはデジタル入出力が12ポート存在し、そのうち6ポートはアナログ出力が可能である。その他に、アナログ入力が6ポート用意されている。²⁾



ドリトルと通信するための設定

Arduinoは標準ではProcessing言語で記述されたプログラムを転送して自律的に動作する。本書ではArduinoにドリトルと通信するためのプログラムを転送し、ドリトルと通信しながら対話的に動作させるArduinoに格納したプログラムは電源を切っても残るため、いちど書きこんでおけばよい。以下に手順を示す。

- ArduinoのWebサイト (<http://www.arduino.cc/>) のDownloadページから、使用しているコンピュータ(Windows, Mac OS X, Linuxなど)に合わせたソフトウェアをダウンロードし、インストールする。
- インストールしたプログラム (**Arduino IDE**) を起動し、ドリトルのパッケージに付属する **arduino\dolittle.ino** というファイルを開く。すると、画面に「#include <LiquidCrystal.h>」で始まるプログラムが表示される。
- Toolsメニューの「Board」から、使用するArduinoの種類を選ぶ。
- Arduino IDE上部の「」のボタンVerifyを押す。すると、画面下部に「Done Compiling」と「Binary sketch site: ...」というメッセージが表示される。
- USBケーブルでArduinoをパソコンに接続する³⁾。すると、基板上の緑色のLEDが点灯する。
- Arduino IDE上部の「」のボタンUploadを押す。シリアルポートを選択するダイアログが開いた場合は、Arduinoが接続されたポートを選択する⁴⁾。すると、基板上のオレンジ色のLEDが点滅してプログラムが転送される。
- 正常に転送された場合は、Arduino IDEの画面下部に「Done uploading」と表示される。このメッセージを確認したらArduino IDEを終了する。

デジタル出力による動作の確認

動作を確認するにはArduinoとUSBケーブルを接続した状態で、ドリトルに次のプログラムを入力して実行するArduino上の「L」と書かれたオレンジ色のLEDが1秒ごとに10回点滅すれば、ドリトルとの通信は正常に行われている。

システム"arduino"使う。

```
a[arduino]作る。  
a[システム！シリアルポート選択) ひらけごま。  
  
led[a[13]デジタル出力。  
[led[0]書く。a[1]待つ。led[1]書く。a[1]待つ」！10 繰り返す。  
  
a[とじろごま。
```

ドリトルからArduinoを制御するプログラムは、次の形で記述する⁵⁾。先頭の行ではArduinoを使うプログラムを作成することを示している。2行目の「a」は、接続されたArduinoに対応するオブジェクトである。

```
システム[arduino]使う。  
a[arduino]作る。  
a[システム！シリアルポート選択) ひらけごま。  
...  
a[とじろごま。
```

「...」の部分にはArduinoを制御するプログラムを書く。今回は最初に、13番ポートに**デジタル**出力するオブジェクトを作り「led」という名前を付けている。基板上には13番ポートに接続された**発光ダイオード(LED)**が存在するため、外部にLEDを接続しなくても動作の確認が可能である。

```
led[a[13]デジタル出力。
```

続いてledに「書く」により出力を行う。デジタル出力では、「1」を書くことで出力をONにし、「0」を書くことで出力をOFFにする。このプログラムでは、0と1を1秒ごとに出力することでLEDを点滅させている。

```
[led[0]書く。a[1]待つ。led[1]書く。a[1]待つ」！10 繰り返す。
```

Arduinoに接続したLEDを光らせる場合は、「デジタル出力」のパラメータに接続したポート番号を指定する。ブレッドボードを利用した配線の例は**arduinoSample**を参照されたい。

アナログ出力

Arduinoの特定のポート⁶⁾では、**PWM**⁷⁾による**アナログ**出力が可能である。アナログ出力では、出力する値として0から255の数値を指定できる。次のプログラムでは、最初に10番ポートに接続されたLEDを「150」の明るさで点灯させた後、「255」の明るさで点灯し、最後に「0」で消灯している。

```
システム[arduino]使う。  
a[arduino]作る。  
a[システム！シリアルポート選択) ひらけごま。  
  
led[a[10]アナログ出力。  
led[150]書く。a[1]待つ。  
led[255]書く。a[1]待つ。  
led[0]書く。  
  
a[とじろごま。
```

デジタル入力

デジタル入力は、特定のポートの電圧の有無を0と1の値で返すことで、スイッチ等のONとOFFを検出できる。

次のプログラムでは、12番ポートに入力があるときに画面のタートルを前進させている。（スイッチが接続されている場合は、押されているかどうかでタートルの動きが変化する）

```
システム "arduino" 使う。  
a arduino 作る。  
a システム！シリアルポート選択）ひらけごま。  
  
sw a 12 デジタル入力。  
かめた = タートル！作る。  
「かめた sw 読む）歩く」！100 繰り返す。  
  
a とじろごま。
```

アナログ入力

アナログ入力は、特定のポートの電圧を0から255の値で返すことで、各種センサの入力を検出できる。

次のプログラムでは、アナログの0番ポートに接続された光**センサ**（CdS）の入力値によって、画面のタートルを回転させている。

```
システム "arduino" 使う。  
a arduino 作る。  
a システム！シリアルポート選択）ひらけごま。  
  
cds a 0 アナログ入力。  
かめた = タートル！作る。  
「かめた cds 読む）×10）向き」！100 繰り返す。  
  
a とじろごま。
```

Arduinoの配線例

arduino analog output 節から **arduino analog input** 節の動作を確認するための回路図を示す。抵抗値はスイッチに接続したものが100KΩ他は10KΩである。



写真は**ブレッドボード**を利用して配線したものである。配線材・LED等の部品は、スイッチサイエンス社⁸⁾の「Arduinoをはじめようキット」のものを使用した。



加速度センサの応用例

加速度センサを利用すると、傾きを検出できる。次の回路図のように、3軸加速度センサを接続することが可能である。⁹⁾



3軸加速度センサを利用するプログラム例を示す。ここでは1方向の傾きだけを利用してWiiリモコンのように画面のタートルを操作することができる。

```
システム"arduino" 使う。
aArduino作る。
aシステム！シリアルポート選択）ひらけごま。

かめた＝タートル！作る。
「かめた！400 歩く 90 左回り」！4 繰り返す。
枠＝かめた！図形を作る。枠！-200 -200 移動する。
判定＝ラベル！作る。

xinax0アナログ入力。
x値＝フィールド！作る。

「かめた！5 歩く。
xxin読む。
x値！x書く。
かめたxx-127右回り。
かめた：衝突＝「かめた！-10 歩く 180 右回り。判定OUT 書く」。
」！1000 繰り返す。

aとじろごま。
```

1)

入手方法は、ArduinoのWebサイト（<http://www.arduino.cc/>）のBuyというページからJapanの項目で日本での代理店を見ることができる。

2)

Arduino UNOの基板上では、アナログ出力可能なポート番号には「～」の記号が付いている。

3)

Macでは設定が必要な場合がある。「はじめにp.macinstall）を参照。「新しいネットワークインターフェースが検出されました」と表示された場合は、キャンセルでダイアログを閉じて構わない。

4)

ポートが不明な場合は、WindowsであればCOMに続く数字の大きい順に試し、Arduinoが反応するポートを探す。Macの場合は「/dev/tty.usbで始まる名前を探す」。ポートは「Toolsメニューの「Serial Port」から選択することもできる。

5)

「（システム！シリアルポート選択）」の部分は、あらかじめわかっている場合は、「COM1」のようにポート名を文字列で記述することも可能である。

6)

Arduino UNOでは基板上の番号の前に「-」が付いた3, 5, 6, 9, 10, 11の6個のポートでアナログ出力が可能である。

7)

ONとOFFの比率を変えながら高速に繰り返すことで、擬似的にアナログ値を表現する方式。

8)

<http://www.switch-science.com/>

9)

今回は、秋月電子通商で販売されているカイオニクス社の「3軸加速度センサモジュール KXM52-1050」

で動作を確認した。

From:

<https://dolittle.eplang.jp/> - プログラミング言語「ドリトル」

Permanent link:

https://dolittle.eplang.jp/ch_arduino?rev=1514995824

Last update: **2018/01/04 01:10**

